



二松学舎大学 父母会報

平成5年5月10日創刊
平成24年3月31日発行
(第76号)

二松学舎大学父母会

(本部)東京都千代田区三番町6番地16
(事務局)千葉県柏市大井2590
〒277-8585 TEL.04(7191)8756

二松学舎大学柏事務課

題字は
故 観山貞廣常吉先生書



「絆」と「感謝」の 心を持って

父母会長 篠塚義光



卒業生の皆さん
ご卒業おめでとうございます。
大学は卒業しま
すが、これから

が人生の新たなスタートとなります。
今、日本は東日本大震災、欧州の
金融不安などの影響を受けて先の見
えない状況にあり今後、様々な困難
に出会うかと思いますが二松学舎大
学で学んだ事はこれからの人生にお
いて必ず皆さんを支えてくれると思
います。
震災後の日本は「絆」と「感謝」
の大切さを教えてくれました。皆さ
んも大学生活の中で様々な人と出会
い同じ時間を過ごしたことでの
「絆」と「感謝」を感じたことでし
ょう。このことは社会に出ても同じ

であることを伝えたいと思います。
社会においても人は一人では成り立
ちません。先輩、同僚、友人など
様々な人との関わりがありそれは自
分の意に反する事もあるかと思いま
す。その時には自分の中で「絆」と
「感謝」の気持ちを持って臨んで下
さい。その心を持つことによって自
分が困難な時には必ず力になって
くれます。そして他人が困難な時に
はその人の力になることができます。
皆さんの人生はこれからが長く険し
い道のりです。この険しい道のりも
「絆」と「感謝」の心を持つことが
支えとなり乗り切ることができると
しましょう。そして自分の人生を楽しん
で下さい。
卒業を迎えたご父母の皆さま、誠
におめでとうございます。また、こ
れまで二松学舎大学父母会に対する
多大なるご支援とご理解を賜り心よ
り御礼申し上げます。大変ありがと
うございました。
最後に、二松学舎大学教職員の皆
様には日頃より子供たちのご指導を
賜り御礼申し上げます。本当にありが
たうございました。



贈る言葉―心の平静を保つ

学長 渡辺和則



卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。経済学を勉強して、皆さんへのメッセージを書きたいと思っています。間接的に参考になるようなことがあれば、併せて、「国富論」

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。経済学を勉強して、皆さんへのメッセージを書きたいと思っています。間接的に参考になるようなことがあれば、併せて、「国富論」

卒業生の皆様へ

理事長 水戸英則



卒業生、修了生の皆さん、卒業おめでとうございます。世界は今大きな構造変化の渦中にあります。先進国は膨大な財政赤字を抱え、年金や医療制度の行方を模索しており、ギリシヤなど国が破綻

卒業生、修了生の皆さん、卒業おめでとうございます。世界は今大きな構造変化の渦中にあります。先進国は膨大な財政赤字を抱え、年金や医療制度の行方を模索しており、ギリシヤなど国が破綻

言葉

文学部長 江藤茂博



文学部、卒業されるみなさん、おめでとうございます。柏や九段で過ごされた日々は、いまだのような思い出として甦るのでしょうか。ここにひとつの課程を終えて、また新しく前へ一歩踏み出されるみな

文学部、卒業されるみなさん、おめでとうございます。柏や九段で過ごされた日々は、いまだのような思い出として甦るのでしょうか。ここにひとつの課程を終えて、また新しく前へ一歩踏み出されるみな

送る言葉

国際政治経済学部長 菅原淳子



卒業生の皆さん、おめでとうございます。胸に、二松学舎大学を巣立ち、新たな人生へ第一歩を踏み出そうとしていらっしゃる皆さん。皆さんの前には、さまざまな可能性を秘めた道があります。

卒業生の皆さん、おめでとうございます。胸に、二松学舎大学を巣立ち、新たな人生へ第一歩を踏み出そうとしていらっしゃる皆さん。皆さんの前には、さまざまな可能性を秘めた道があります。

観察者は、人が学問を積み、様々な体験をすることによって形成される、とスミスは考えます。

ところで、私たちは、自分が正しいと確信する感情や考えや行為が、他人に称賛されなかったり、また否認されたりする場合、どのような感情を抱くでしょうか。おそらく、憤慨し心の平静を失うことが多いのではないのでしょうか。そのような場合、耳を澄まして胸中の公平な観察者の声を聴きそれに従えば、心の平静を保つことができる、そしてそれができる人は「賢者」であり、そうでない人は心の平静を保つことのできない「弱い人」である、とスミスは言っています。

皆さんは二松学舎大学において熟

必ずしも全て正しい事ではありませぬ。従って、今後、こうした環境で生活していく皆様に、心がけて欲しいことは、「物事に対し常に倫理観を持って中って欲しい」と言う事です。倫理とは、人と人との秩序関係であり相互間で決められた善悪やモラルの判断規程を指します。

今から百二十五年前、漢学塾二松学舎を創設した三島中洲先生は、創設時、「東洋の精神による人格の陶冶」、「漢学を教授することにより一世に有用なる人材を養成する」と唱え、これが本学の建学の精神になっています。この精神は、儒教の教え、すなわち人間がより善く生きるために

行うべき道徳、倫理性を身に付ける教育の必要性を説いています。

人間社会は、各々が所属する部署でルールがあります。このルールを理解し、それを守ることが、倫理に適用ということですね。ルールに適しているかを検証しつつ、生活をしっかりとし仕事をし、自らの能力を活かして収入を得て、独立した家計を営む、研究を行う、その上で、そうした仕事や社会的な活動等を通じて、先ずは自分自身、次に自分の周り、ひいては日本や世界をより良い社会にすることに貢献して欲しいと思います。

ですが、さまざまな迷いも生まれることでしょう。しかし、どのような困難が君たちの前に立ちふさがろうと、大きな迷いで先がよく見えなくなるうとも、君たちには、急がず、あわてず、時には二松学舎で学んだ先人たちの言葉を思い出していただきたいと思えます。そして、君たちの志となる言葉や自分を生かす言葉を、先人たちのそれで、鋭く磨き、時には正して、さらにはその言葉を力として社会に大きく貢献してもらいたいと思えます。

もし文学部的な生き方があるとするれば、先人たちの言葉とともに、自らの言葉で生きること、自らの言葉

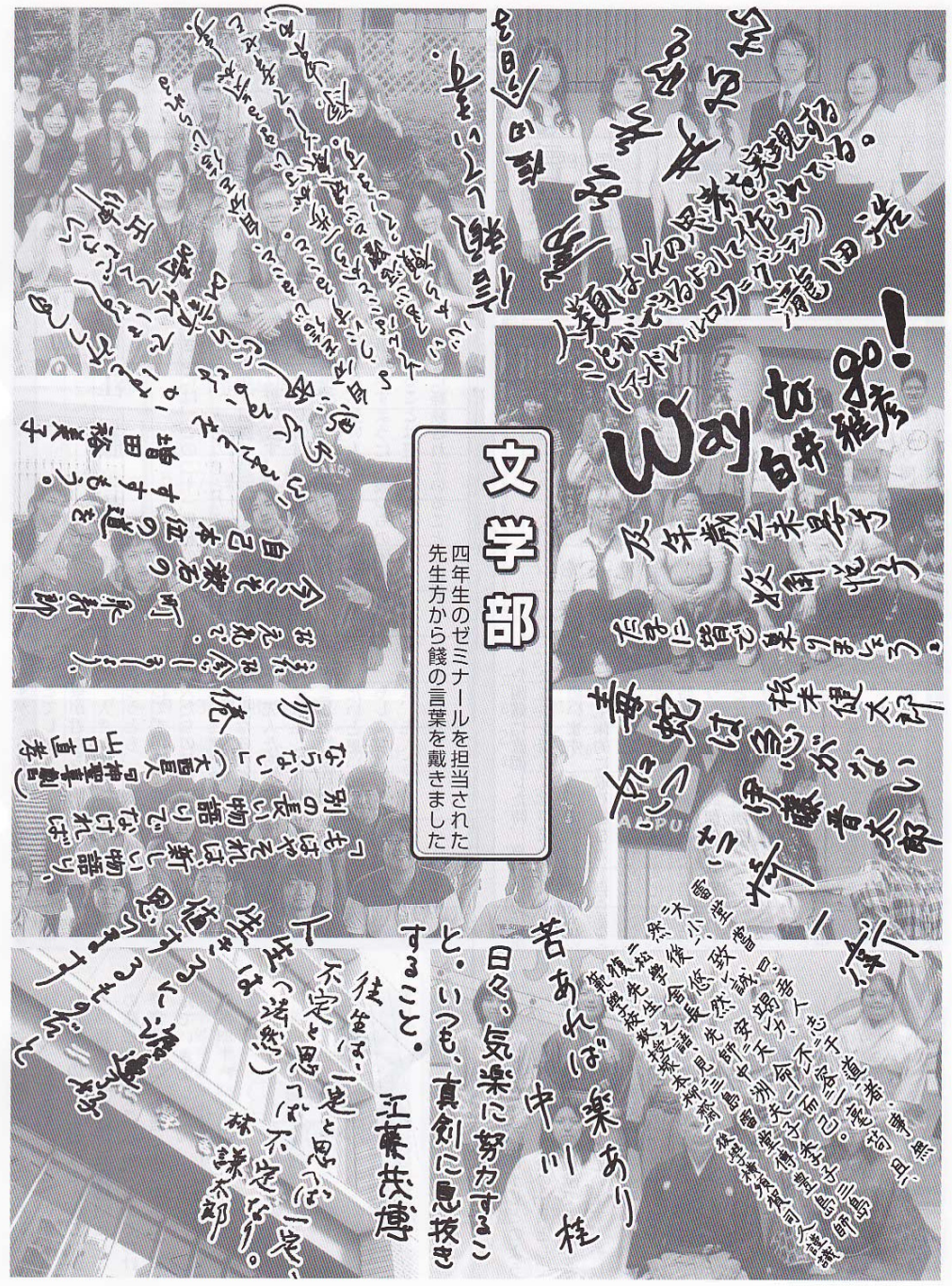
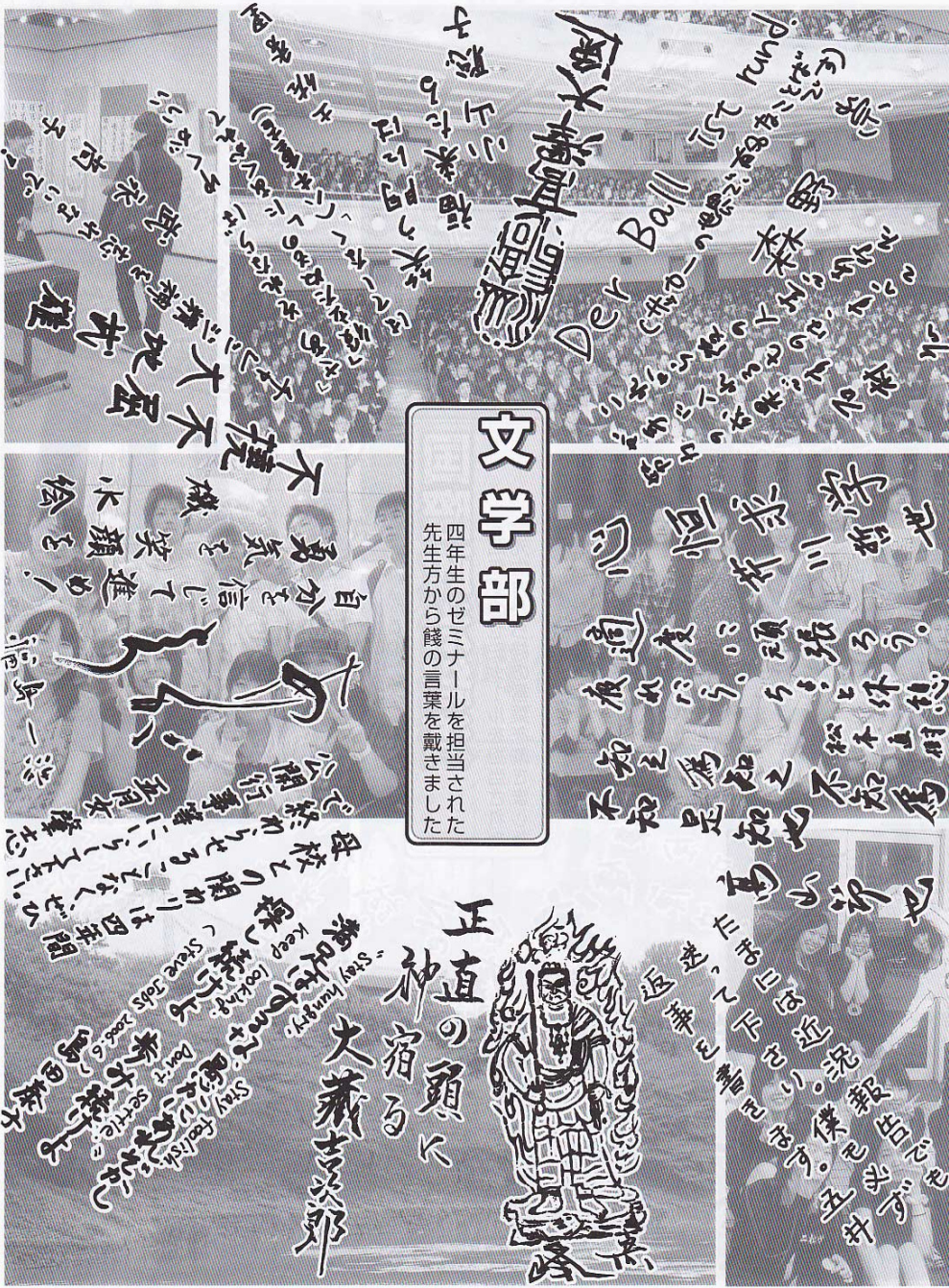
や困難に直面した時、自分の力で解決方法を探ることが求められることと思えます。そこで問われてくるのは、主体的に取り組む力、自ら考える力だと思えます。現代のように情報が溢れ、社会が急速に変化している時代の中で、皆さんには自分を見失うことなく、周囲に振り回されることなぐ的確に判断を下していきけるよう、努力していただきたいと思っています。

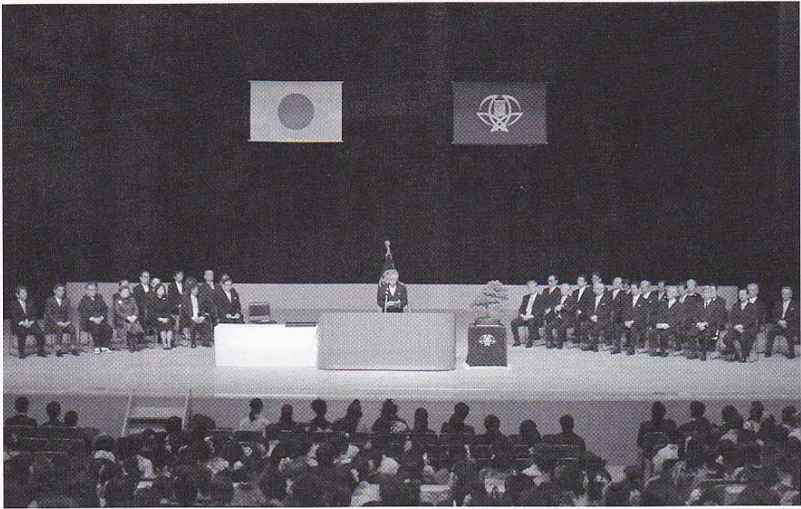
さて、最近の経済状況の悪化の中で、今年は厳しい就職難の一年でした。皆さんにとっても就職活動は苦しい思い出かもしれません。必ずしも思い通りの就職ができたわけではない



いかもしれません。しかしどのような場にあっても、社会の一員として何らかの形で社会に貢献できると考えていただきたいと思えます。そして皆さん、どうぞ人生を長いスパンで考えてください。社会に出てから再び学びなおすことも可能です。さらにできれば、「生涯を通して学ぶ」という姿勢を、是非持っていただきたいと思えます。

さまざまな可能性を持つていらっしやる皆さんの前途が、希望にあふれていることを祈って、送る言葉といたします。





平成二十四年三月十九日(月)、新宿文化センター大ホールにおいて、平成二十三年度二松学舎大学学位記授与式(卒業式)が挙行されました。三十年にわたり使用してきた九段会館大ホールが東日本大震災の影響で使用できなくなっため、会場を新宿文化センター大ホールに変更して、執り行われました。着飾った卒業生たちが会場前に集合し、友達同士や親子で写真を撮る風景があらちちからで見られまし

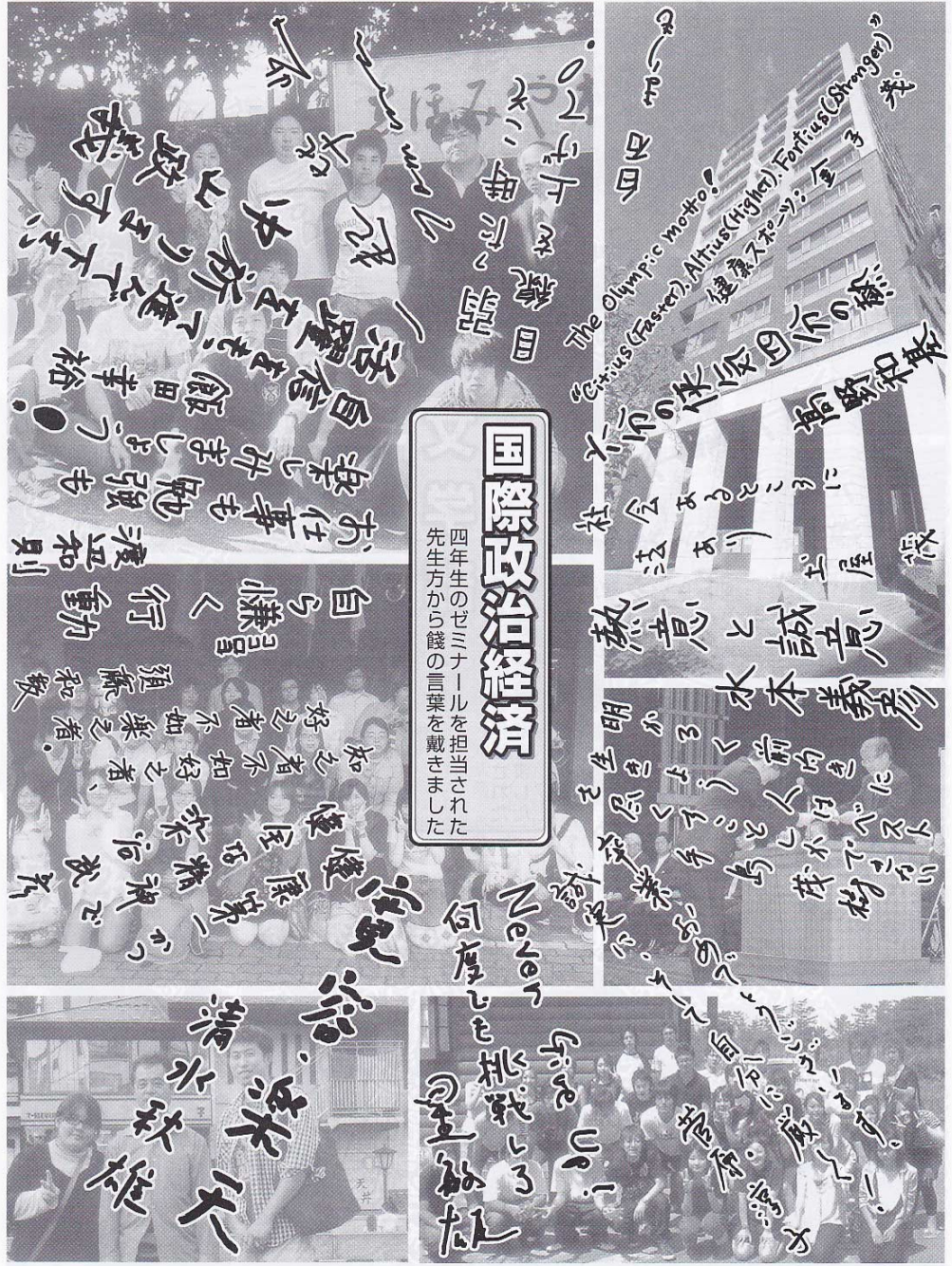
平成23年度

卒業式



午前十時、中嶋教学課員(司会)の開式宣言に始まり、国家斉唱、高野和基学務局長による学事報告に続いて、文学部卒業生四三八名に学士(文学)、国際政治経済学部卒業生二二一名に学士(国際政治経済)の学位記・卒業証書が授与されました。国文学科・中国文学科・国際政治経済学科それぞれの成績最優秀者には、中洲賞として賞状と賞品が授与され、その後、教育職員免許状が伝達されました。

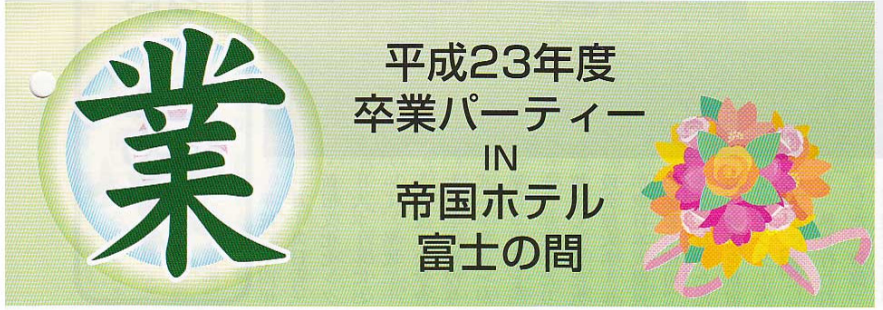
続いて渡辺和則学長の告示、水戸英則理事長・神津賢一郎松谷会長の祝辞、祝電披露、学生会長の大澤省吾君の送辞、卒業生代表の露木志穂さんの答辞、校歌斉唱と進行し、厳粛のうちに卒業式は終了しました。卒業生の皆さん、ぜひ自分の夢を大切にしてください。粘り強く仕事に取り組み、社会人として活躍されることを願っております。



国際政治経済
四年生のゼミナールを担当された先生方から饒の言葉を戴きました



平成二十四年三月十九日(月)、午後二時より帝国ホテル「富士の間」において、平成二十三年卒業パーティーが開催されました。昨年は東日本大震災が直前に起こり、中止となりましたが、今年開催することが



できました。パーティー会場ではゼミの先生を囲んでの写真撮影や友との語らいの楽しい時間が瞬く間に過ぎ、終了後は立ち去りがたく別れを惜しんでいる姿が見られました。



卒業にあたり、新しい人生への、希望に満ちた門出に胸膨らませている学生三名に、四年間学んだ学生生活を振り返り、現在の心境及び感想等を語っていただきました。

『四年間を振り返って』



文学部国文学科
濱田 有香

四年間を振り返れば、楽しいことも辛いこともたくさんありました。しかし、私にとって二松学舎大学で学んだこの四年間はどれもいい思い出として残っています。

一、二年次は緑に囲まれた柏校舎で勉学に励み、広大な校舎の中でびのびと学ぶことができました。必修科目や基礎科目を学ぶ中で一番印象に残っているのが、外国語の授業です。私は韓国語を履修していましたが、テレビなどに出てきた文字を読めた時はとても感動しました。今思えば、もっと授業を取っておけばよかったと少し後悔もあるほど、勉強になるとともに楽しい授業でした。

三年生になり、柏校舎から九段校舎へと移動し、専門的な授業が増えました。高校時代に夏目漱石の『こころ』を学んでもっと勉強したいと思いい、私は夏目漱石が学んだ二松学舎大学への入学を決意しました。なので、積極的に近代文学を始め、夏目漱石を学ぶ授業を取り、勉強に明け暮れました。その中でも柴田勝二先生の授業では夏目漱石の作品に作者の未来志向が盛り込まれていることを知り、高校時代に疑問に思っていた点を解消することができました。この時、改めて二松学舎大学に入学して良かったと思ったのを覚えています。

また、近代作品を学ぶと同時に古

典作品にも興味を持ちました。そこで、五月女肇志先生の『風葉和歌集』を学ぶゼミナルに入りました。三年次は『風葉和歌集』の中から一つの和歌を選び、研究していきました。私は『狭衣物語』の宰相中将の詠んだ歌を選び、その限られた文字の中にも作品の中の一つのピースとしての役割を担っているからこそ、丁寧に読み解くことの大切さを知りました。作者がなぜこの場面にこの和歌を入れたのか、歌った人物の思いを考えた研究していく楽しさを見出し、あつという間に一年が過ぎました。

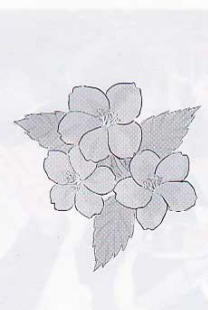
四年生になり、卒業論文は三年次で学んだ一つ一つの和歌の重要性を噛みしめながら『源氏物語』と現代で表象された『源氏物語』について原作と比較しながら、研究していきましました。一つの結論に導くのは容易ではなく、時には躓き、悩んだこともありましました。しかし、そうした時には五月女肇志先生からご指導を頂き、きちんと結論へと導くことができました。卒業論文という大学生活の集大成を満足いく形で完成できたことをとても嬉しく思っています。

大学では勉学に励みました。しかし、その中でもかけがえのない友人と出会えたのが一番心に残っています。一緒に遊んだことはもちろん、時には授業で分からないことを教え

合うなど思い返せば楽しい思い出ばかりです。大学の友達は一生の友達だと聞いたことがあります。授業、サークル、ゼミナルなどで色々な場所でも多くの友人と出会い、思い出を作りました。大変な時には励ましてくれたり、楽しいときは一緒に共有してくれたり、そんな人生のページをこの二松学舎大学で作ることができました。

大学に入り、私は知らないことを学び、初めてのことをたくさん経験しました。一人では何もできなかった私が何事にも挑戦するようになり、「変わったね」と高校時代の友人に言われた時、自分が成長したことを実感しました。先生、友人、そしてなによりここでまで私を育て、支えてくれた家族に感謝の気持ちを述べたいと思います。

長いようで短かった四年間。充実した学生生活を送れたことを誇りに持ち、これからの人生を歩んでいきたいと思えます。



『かけがえのない四年間の大学生活』



文学部中国文学科
松本 碧涯

高校二年の第二外国語の授業で中国語を勉強したことがきっかけで、大学で中国語を専攻しようと思っただけで、二松学舎大学に入学しました。当時、「中国語」にしか興味がなかった私が「中国」にまで興味が広がって、理解を深めることができたのは、二松学舎大学の中国文学科という環境で学ぶことができたからです。

履修できる中国語の授業は全て選択し、まさに中国語漬けの毎日でした。先生方の中国語の授業は多種多様で、本当に個性的でした。お陰様で、自分の勉強スタイルというものを自然に身に着けることができたと思います。自分で勉強することの楽しさを学ぶことができました。

また、一年の必修授業で中国文学について学び、それまでとつづきに

くい印象だったのが全く変わりました。中国文学の学習については伊藤晋太郎先生に大変お世話になりました。専門知識の全く無い、私のような初心者にもわかりやすく丁寧に教えてくださり、毎回楽しく授業に臨むことができました。先生はサブカルチャーについてもよく紹介してくださり、今では大好きな三国志や中国映画は、先生の授業を受けていなかったら今も興味がないままだったかもしれません。二年時に履修した牧角悦子先生の中国文学概論も非常に興味深い授業でした。漢詩・漢文に苦手意識のあった私ですが、一つの作品から読み取れる情景、作者の心情、人柄について、まるで物語を読んでいるかのように楽しく学ぶことができました。

二年の夏休みには中国・北京短期語学研修に参加しました。自分の中国語がどこまで通用するかという腕試しと、これからの課題を探すためでしたが、現地での生活に触れ、様々な人に出会えたことも素晴らしい経験でした。もっと生きた中国語を勉強したいと思い、三年の夏から一年間、中国・北京大学で交換留学生として学ぶ機会を捉えることができました。最初の半年は留学生用の中国語学習プログラムを受講し、残りの半年は本科に移動し、中文系でより専門的な中国語学についての知識を身に付けることができました。国籍も年齢も関係なく多くの友人もできました。何よりも良かったと思うのは、外国から日本という国を見ることで、日中両国の良いところも悪いところも理解できたことです。中国に関する日本メディアの報道内容は誇張したものも多く、偏った見方をさせているように感じます。残念なことですが、中国に対してマイナスイメージしか持っていない日本人は少なくありません。実際に自分で中国で生活して真実を確かめるのは、全ての人が可能ではないので仕方ないことですが、私はそのような貴重な経験ができて本当に良かったです。そして、何事も多面的に見ることの大切さを学ぶことができた

のは大きな収穫でした。二年間のゼミナルも私の大学生活からは決して切り離すことができません。石村広先生ののご指導のもと、現代中国語の文法論について学びまして教えてくださり、研究に対するその熱心な姿勢に何度も感銘を受けました。卒業研究においても文献を提供して下さったり、多くの助言を与えてくださいました。また、先生は食事等の機会もよく設けてくださり、勉強以外にも大変お世話になりました。本当に感謝しています。最後に、中洲賞受賞という形で大学生活を締めくくることができたのは大きな喜びです。自分の勉強への取り組みを評価して頂けて本当に嬉しです。四年間大学に通わせてくれた両親への恩返しにもなりました。これも共に切磋琢磨し合った友人、頼りになる家族、諸先生方のお陰です。本当に有難うございました。これからも二松学舎大学の卒業生であることを誇りに思い、学んだことを活かし、色々なことに挑戦していきたいと思えます。



『様々な出会いの四年間』



露木志穂

国際政治経済学部

思い起こせば、入学式が昨日のよう
に感じられます。お世話になった
先生方や、ともに歩んできた友人達
との初対面の姿がこの間のように
思い出せるほどです。

私の大学生活は、一言で言えば「勉強
一色」であったといえます。一・二
年次は必修科目が多かったですが、
空き時間いっぱい講義を入れて、
幅広い知識を得ることが出来たと思
っています。政治学や経済学では高
校の延長線上にありながらも、事実
のみならず、何故こうなったか、と
いう「考えること」の基礎は、この
段階で身に付きました。また、法学
は大学で始めて学ぶ学問であったの
で、最初は多少の取っ付きにくさ
がありましたが、意外とすんなりと受
け入れることが出来ました。特に一

年次の法学では基礎的なことを学
びましたが、解釈の違いで、意味が大
きく変わってしまうというのが衝
撃的だったという印象があります。
「国際政治経済学部」という名称
で、良く「英語が得意では？」とい
うことを言われますが、私は中学か
ら英語に苦手意識を持っていました。
単語の語彙が少ないのはもちろんで
すが、長文が特に苦手で、何処から
翻訳して良いかわからなくなる、
といった具合でした。会話が主体の
授業では身振り手振りなどでカバ
ーできるのですが、読み書きや文章の
理解が主体の授業は特に苦手意識が
強かったです。しかし、本多先生の
授業を受けて、わからない単語など
を改めて辞書で引いて見る楽しさを
知ったと思います。授業形態が自宅

学習を必要とするものでもあったの
ですが、課題自体に興味をそそられ
るような授業をしてくださっていた
ので、英語を好きになることから始
める、というふうに乗込んで学ぶこ
とが出来ました。

三・四年次は、法・行政を専攻し、
主に幅広い法律事情を学びました。
専門性は増しましたが、民法や商法
税法や憲法には違った面白さがあり
ました。特に民法や憲法は判例を取
り入れた説明がとても興味深かった
です。また、政治や経済は国際問題
に特化して学びました。過去の国際
問題の一連の流れを学ぶことで、現
在に至る国際関係をよりよく理解す
ることができたと思います。専門性
の高い知識を用いて、その時々此起
きた国際問題や判例をより具体的に
考えることで、私自身が思っていた
よりも複雑に絡まっていた事実関係
を学ぶことができ、広い視点で物事
を考える力を養うことが出来ました。
一年次から様々な先生にご指導い
ただきましたが、やはり三年次から
所属している染谷先生のゼミには大
変お世話になりました。「自分が理解
している事実を、何も解らない相手
にわかりやすく伝える」という課題
は、今現在をもつても完璧にでき
たとは思いません。しかし、ゼミ
当初に比べては格段に成長したと思



学務局長
高野和基



大学三年生の四月、その朝、僕は
とても緊張していた。今日こそ、初
めての二セガクを執行するつもりだ
つたらだ。

「二セガク」というのは、「にせ
学生」のことで、自分の在籍してい
ない大学の授業へ単独で潜り込むこ
とを言う。著作などを読んで、その
著者の先生の講義を聞きたいとなれ
ば、よその大学のキャンパスへ行く

文学部教授
武永尚子



学生時代の思い出としてまず思い
浮かぶのは夏休みの長期旅行である。
一年生のとき友人と二人で十一日
間山陰旅行をしたのを皮切りに、二
年生のときは沖繩の南大東島で約一
カ月を過ごした。サンゴ礁地形の研
究者だった兄が企画した巡検に特別
参加させてもらったのである。連日
炎天下での測量などでみんなあっと
いう間に真っ黒に日焼けした。辛か

ということが、当時、(たぶん)流
行っていたのである。

入学して丸二年がたったその頃、
僕は大学の授業には興味を持てな
なっていた。代わりに、二セガクを
したい幾人かの《先生》と「活字の
中のキャンパス」で出会っていた。
その日、二セガク大学キャンパス
内の(前もって調べておいた)教室
へ。大教室での講義に潜り込むつ
りだったのに、そこ
は小教室で、二〇人
ほどの学生が楽しそ
うに談笑している
のではない。しかも半
数近くが女子学生な
ったのは、水質・水
位の変化を調べるた
めに一日十二回担当
場所に水を採取しに
行かなくてはならな
かったことである。

一回目は片道三十分以上かかる鍾乳
洞に、二回目は地元の人々の協力を得
て小舟で大池に行った。昼間は焼
けつくような太陽のもとを、また夜は
真っ暗なサトウキビ畑を抜けて行く
のであるが、夜のサトウキビ畑は本
当に怖かった。そして何より二十四
時間一睡もできないのは本当に参
った。
三年のときには広島から東京経由

私の 学生時代

のだ。
― 目立ち過ぎだ！ ―

僕はそいつと席に着いた。最初の
講義終了後、意を決して日先生へ
「二セガクに来ました。よろしくお
願います」と告げました。それ
は、「こあいさつした」というより
「仁義を切った」というほうが当
っていたかもしれない。
日先生の講義は毎回、丁寧な淡々
と進んだ。僕はひた
すらノートを取った。

「アルガキザエモン
によれば…」何
にも知らない俺
周囲の学生には、
で二十六日かけて北
海道へ、各駅停車、
夜行列車利用という
貧乏旅行をした。羅
白岳と利尻岳で雪渓
を歩いたのが、雪に
縁のない広島育ちの私としては大感
激で、雪山に対する無限の憧れはこ
のとき生まれた。
四年のときが台湾で、阿里山や東
西横貫公路・太魯閣渓谷に行ったこ
とで、それまで以上に自然に魅せら
れることになった。またこの台湾旅
行で私のターニングポイントともい
える出会いがあった。出発前、指導
教官から学問上の友人である政治大



「あぶない奴」だと思われ、警戒さ
れた。親しくなったのは、先生に頼
みこんで夏休みに参加させてもらっ
た大規模な社会調査だった。連日の
猛暑の中で調査。その日の体験を
話題にして、皆で盛り上がった。

この年、僕の二セガク渡世は、三
つのキャンパスで三コマの講義。二
セガクなので試験は受けていないし、
もちろん、単位はない。
ほぼ四〇年前の、僕の学生時代の
ひとこまです。

学の王教授に会いに行くと言われ
ていた。この王先生が故宮博物院に
連れて行ってくださり、しかも院長
に会わせてくださったのである。二
年後、この院長が私を研究員として
公務員並みの待遇で故宮博物院に呼
んでくださったのだ。それまで「論
語」や「春秋左氏伝」「儀礼」などを
漢文で読んでいた私が、その後中国
語を本職とするようになるきっかけ
となった。
専攻とは無関係なところでいろいろ
いるな経験をしていると、意外な道
が開けることを実感し、「縁」の不
思議さを感じている。



左から、中国文化交流センターの職員の方々、父母会役員等が出席し、留學生との懇親会を深めました。



留學生の皆さんには、今後も充実した日々を送られるよう祈ります。

国際交流年末懇親会を開催

平成二十三年十二月十日(土)に国際交流年末懇親会が九段一号館の十三階多目的ホールで開催されました。この年末懇親会は国際交流センター開設以来、毎年十二月に実施されています。

当日は、渡辺和則学長をはじめ教職員の方々、父母会役員等が出席し、留學生との懇親会を深めました。

懇親会の席上、同日午後二時から開催された「第八回外国人留學生日本語スピーチコンテスト」の表彰がありました。第一位の学長賞にオーストラリア・シドニー工科大学からの交換留學生サザーランド アンナさん、第二位の副学長賞に、台湾・中国文化大学からの交換留學生の蕭如意さん、第三位の国際交流センター

長賞に、台湾・中国文化大学からの交換留學生・洪潔欣さん、審査員特別賞に中国・北京大学からの交換留學生の張展君が受賞されました。受賞者には渡辺学長から、賞状・賞品が贈られました。四人の受賞者は来日してまだ三ヶ月と日が浅いにもかかわらず、そのスピーチぶりに感心させられました。

表彰式の後は、参加された先生方一人ひとりから留學生へのアドバイスがあり、今年度卒業する私費外国人留學生の紹介の後、参加者全員で記念撮影をして、懇親会はお開きとなりました。

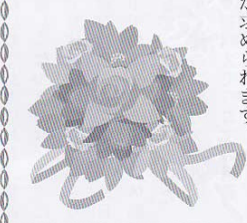
留學生の皆さんには、今後も充実した日々を送られるよう祈ります。

キャリアセンターだより

卒業生のご父母の皆様におかれましては、お子様たちのご卒業を心よりお喜び申し上げます。新たな進路が決まった卒業生の皆様には、それぞれの道で更なる成長をしていただくことを心よりお祈り申し上げます。昨年の未曾有の大震災により、日本社会が一変しました。あれから一年が経ち、「復興・絆」を合言葉に、徐々に経済が回復するかと思われましたが、欧州経済危機・歴史的名高・燃料費の高騰などの影響から、相次いで企業の赤字決算が発表されるなど、経済・雇用環境は厳しさが増すばかりです。これから社会に巣立っていく学生にとって、社会人になってからも大変な状況が続いていくでしょう。より一層の精進を期待するとともに、迷うことがあったら母校を思い出し、相談に立ち寄ってほしいと思います。

一方、進路未定のまま卒業せざるを得なかった方たちにつきましては、キャリアセンターで継続支援をしていきますので、卒業後も遠慮なくご利用ください。「卒業後三年は新卒扱い」という話に、まだこれからゆっくりに考えればよいと思っている学生、ご中も毎日多くの学生がキャリアセンターに来室し、エントリーシートの添削や模擬面接などを行い、活気づいています。今年の採用も、引き続き厳選採用となつていくようです。厳選採用とは、採用の質を落とさずして採用数を充足するのではなく、企業側の望むレベルの学生がいいる場合は採用

卒業生のご父母の皆様におかれましては、お子様たちのご卒業を心よりお喜び申し上げます。新たな進路が決まった卒業生の皆様には、それぞれの道で更なる成長をしていただくことを心よりお祈り申し上げます。昨年の未曾有の大震災により、日本社会が一変しました。あれから一年が経ち、「復興・絆」を合言葉に、徐々に経済が回復するかと思われましたが、欧州経済危機・歴史的名高・燃料費の高騰などの影響から、相次いで企業の赤字決算が発表されるなど、経済・雇用環境は厳しさが増すばかりです。これから社会に巣立っていく学生にとって、社会人になってからも大変な状況が続いていくでしょう。より一層の精進を期待するとともに、迷うことがあったら母校を思い出し、相談に立ち寄ってほしいと思います。



学生相談室だより76

カウンセラー 教授 白石 まりも

今年も桜の季節となりました。寒い冬から暖かい「春」という季節になると、どうしようも気持ちがちが弾んでくるのでしょうか。春休みと言う長い自由な時間を過ごした御子さん達も、新しい環境に出発です。新しいことに挑戦する春でもあります。さて大学生になると、周囲から大人として扱われる事が多くなります。親として「もう子供じゃないんだから!」とか「いい加減大人になりなさい!」などと言っていたのが、いつの間にか相談も無く何事も決めていく我が子を見て、頼もしさを感じながらも一抹の寂しさも覚えたりします。我が子に、立派な大人になって欲しいというのは親の願いです。大人とは転んで怪我を沢山して、また立ち上がった人の事を言うのではないのでしょうか!親である自分を振り返って考えても、同じ失敗を繰り返しては幾度となく反省を重ねています。

《原ゼミナール》

私たち磯ゼミでは、中世の説話集である『宇治拾遺物語』をテキストとして学んでいます。一話ごとに発表を行い、その話について考えていきます。説話は仏教説話・中国説話・笑話・昔話など様々な種類があるため、研究対象となる事柄が豊富です。また、中古や近世といった前後の時代とも深く関わるので、時代にとらわれる事なく、自由に研究することができます。

ゼミ合宿は三泊四日で、三年生の夏に鎌倉、四年生の夏に鎌倉①ゼミナール(原ゼミ)を一言で表そうと思ひ、最初に浮かんだのが「ふるきを温めて新しきを知る」という言葉でした。三年次には枕草子をテキストに、本文と向き合いながら平安時代を生きた人や文化に思いを馳せる。夏の京都合宿では、歴史的建造物やその街並みを見て、実体験としての知識を身につける。これは「ふるきを温める」ことだと思ひますし、そこから私達が多くを学んだことは確かです。しかし

《磯ゼミナール》

私たちが磯ゼミでは、中世の説話集である『宇治拾遺物語』をテキストとして学んでいます。一話ごとに発表を行い、その話について考えていきます。説話は仏教説話・中国説話・笑話・昔話など様々な種類があるため、研究対象となる事柄が豊富です。また、中古や近世といった前後の時代とも深く関わるので、時代にとらわれる事なく、自由に研究することができます。

ゼミ合宿は三泊四日で、三年生の夏に鎌倉、四年生の夏に鎌倉①ゼミナール(原ゼミ)を一言で表そうと思ひ、最初に浮かんだのが「ふるきを温めて新しきを知る」という言葉でした。三年次には枕草子をテキストに、本文と向き合いながら平安時代を生きた人や文化に思いを馳せる。夏の京都合宿では、歴史的建造物やその街並みを見て、実体験としての知識を身につける。これは「ふるきを温める」ことだと思ひますし、そこから私達が多くを学んだことは確かです。しかし

この言葉には何か足りない。原ゼミはもっともっと知識に貪欲なゼミなはず。そこで私が考えたのが「ふるきも知り新しきも知る」という言葉です。過去の事をよく研究しながらも、現在にもっとスポットを当てて挑戦していく。これこそ原ゼミだと私は思ひます。このように言えるのは二つの理由があります。一つは原ゼミが先輩と後輩との交流をとても大切にしている点です。ゼミに所属する三、四年生が連携するのはもちろんのこと、原ゼミを卒業された先輩方も私達にゼミの事、進路の

になる直前の春に京都・奈良へ行きます。そこでは、中世文学で舞台となった場所やゆかりのある寺院などを見学します。一日に回る場所が多いため、やることいっぱいにとっても充実した合宿になるのです。京都合宿では、ゼミ生を中心として、一日の計画をたててまわります。

磯先生は学生との関わりを大事にして下さる先生で、神保町や神楽坂へ散策に行ってお茶をする、ということがよくあります。そんな先生なので、私達も勉強のことも、そのほかのことについても気軽にこの言葉には何か足りない。原ゼミはもっともっと知識に貪欲なゼミなはず。そこで私が考えたのが「ふるきも知り新しきも知る」という言葉です。過去の事をよく研究しながらも、現在にもっとスポットを当てて挑戦していく。これこそ原ゼミだと私は思ひます。このように言えるのは二つの理由があります。一つは原ゼミが先輩と後輩との交流をとても大切にしている点です。ゼミに所属する三、四年生が連携するのはもちろんのこと、原ゼミを卒業された先輩方も私達にゼミの事、進路の

ゼミ探訪

大変だと感じることは決して少なくないですが、やり終えた後にはこの上ない達成感を実感でき、大きく事について皆さんの情報を提供して下さいます。その言葉から私達は夢を追いかけ、努力する糧をもらっています。もう一つは積極的に行事を企画し、実行する点です。原ゼミはゼミ生全員が何かしらの係につきゼミを動かしていきます。合宿の準備や飲み会のセッティング、ゼミ費の管理等、社会に出た時に役立つスキルをここで身につけます。また、講話会の開催や学校マナー向上の為に喫煙所清掃、学園祭への参加等、行事を行うにあたりゼミ生自らが企画、運営していく中で私達は大きく成長していくのだと思ひます。

に相談に行くことができます。ゼミ生は真面目な人が多く、お互いに図書館でべったり出会う、ということも少なくありません。また、個人的な人も多く、話していてとても楽しいです。

課題は、ほかのゼミに比べると分量は多いですが、それだけ深く掘り下げて研究することができます。卒論に向けての研究のやり方や論文の書き方を学ぶためのいい機会になっています。



国文学科四年 西村光希



国文学科三年 椿 早織

平成24年度二松学舎大学日程表

年	月	日	月	日	日	程
平成24年	3	30	~	4	7	ガイダンス
	4	3				入学式
	4	6				新入生歓迎式典
	4	9				春 semester 授業開始
	4	20				前期授業料納入期限
	5	中旬				定期学生大会
	5	26				父母会定期総会
	6	16	~	6	17	学園祭(柏)
	6	23	~	6	24	学園祭(柏)
	7	24	~	7	25	補講期間
平成25年	7	30				授業終了
	7	31	~	8	6	試験期間
	8	7	~	9	13	夏期休業期間
	9	1	~	9	13	夏セッション(13日間)
	9	3	~	9	5	ゼミ合宿期間
	9	14				秋 semester 授業開始
	9	22				(秋分の日): 授業実施

年	月	日	月	日	日	程
平成24年	9	29				春 semester 卒業式
	10	8				(体育の日): 授業実施
	10	10				創立記念日 135周年
	10	20				後期授業料納入期限
	11	2	~	11	4	学園祭(九段)
	11	23				(勤労感謝の日): 授業実施
	12	18				月曜日の授業
	12	20				補講
	12	25	~	1	7	冬期休業期間
	平成25年	1	8	~	1	22
1		23	~	1	29	試験期間
2		7	~	2	8	卒業研究面接試問(文学部)
2		12	~	2	13	修士論文面接試問
3		初旬				卒業・修了者発表
3		中旬				ゼミ登録許可者発表(文学部)
3		中旬				進級者発表(国際政経)
3		19				学部・大学院 学位記授与式(予定)

学生顕彰報告

- 書道(個人)
 - 石塚結奈さん 六十三回毎日書道展 入選
 - 市原加織さん 二十八回読売書法展 入選
 - 小島 藍さん 二十八回読売書法展 入選
 - 金子尚美さん 二十八回読売書法展 入選
 - 木谷浩乃さん 二十八回読売書法展 入選
 - 近藤詩織さん 二十八回読売書法展 入選
- 茶道部
 - 「卒業記念茶会」 学外発表会会場借用助成
- 書道部
 - 「第四十六回書作展」 学外発表会ポスター印刷助成
- 狂言研究会
 - 「第三十二回自演会」 学外発表会ポスター印刷助成
- 課外活動団体助成報告
 - 東日本大震災 現地ボランティア

平成24年度 地区別父母懇談会日程表

月 日	開催地
6月24日(日)	青森県(青森市)
6月24日(日)	福岡県(福岡市)
7月 1日(日)	秋田県(秋田市)
7月 1日(日)	新潟県(新潟市)
7月 7日(土)	東京都(九段校舎)
7月21日(土)	栃木県(宇都宮市)
7月22日(日)	鹿児島県(鹿児島市)

父母会事業計画の一環として、毎年地区別父母懇談会を開催しています。平成二十四年度の開催地は、青森県・秋田県・新潟県・栃木県・東京都(九段校舎)・福岡県・鹿児島県の七会場を予定しています(日程は左表をご確認下さい)。

この地区別父母懇談会は、大学の現況、履修の状況、学生生活の状況、就職活動の支援等についての説明があります。

全体説明終了後、個別相談を行っています。大学への質問及びご意見・ご要望などを大学関係者に直接話ができる機会です。この機会をぜひご利用ください。

フリー参加形式としておりますが、会員の皆様には改めて事務局より開催案内をお送りし、出欠の確認をお取りします。

万障お繰り合わせの上、ご参加願います。

定期総会

平成二十四年度

父母会定期総会開催について

左記の日程により、平成二十四年度二松学舎大学父母会定期総会を開催いたします。

当日は講演会を予定しております。

日時・平成二十四年五月二十六日(土)
場所・九段一号館

内容・平成二十三年度事業報告並び

に決算

・平成二十四年度事業計画並びに予算

新二年次生・新四年次生の会員の皆様には、平成二十四年度定期総会のご案内と出欠票(委任状)をこの父母会報第七十六号に同封しておりますので、ご確認願います。

また、準備の都合上、ご出欠を同封の出欠票(委任状)で五月十八日(金)までにお知らせください。

定期総会資料につきましては、五月中旬に郵送にてお届けします。

編集後記

卒業生のご父母の皆様、お子様のご卒業、おめでとうございます。

本会報では、今年新たに新宿文化センターで開催された厳肅な卒業式と、恒例の帝国ホテルで開催された華やかな卒業パーティー、各々の雰囲気や伝わると父母会役員全員で選んだ写真を多数掲載致しました。卒業生とご父母の皆様にとって良き思い出の一つになれば幸いです。

卒業生一人一人が学生生活や就職活動等を通じて学び、また苦労したことを自身の糧にして、更に飛躍され、日本社会の立て直しに貢献されることを大いに期待しています。

自然災害とその後遺症で多難な一年でしたが、多くの方々のご支援・ご協力で大過なく乗り切ることが出来、父母会役員一同、安堵しているところです。今後も大学との緊密な連携を継続し、お子様がより充実した学生生活を送れる様、鋭意努力して参る所存ですので、引き続きご父母の皆様方のご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

例年より厳しかった今冬の寒気も漸く緩み、また千鳥ヶ淵の華やく季節が巡って参りました。今春は桜の花を穏やかな気持ちで眺めながら、新しい学期を迎えたいものです。